

## アトモスフィア

## 大学入試と生物

秋野豊明\*

「医・歯・薬・理など生物系学部の入学試験に生物を必須科目とすべきかについて」、医科生化学・分子生物学教育協議会とか生化学教育委員会で、かつて何度か議論したことがあった。平成11年と平成12年の生化学会での公開討論会「日本の理科教育を考える」でも、生物の教育が主題となった。このような議論が巻き起こった背景は、医・歯・薬学部などに進学してくる学生のうち、かなりの部分（大学や学部によって異なるであろうが、約5割）が、高校時代に生物を履修してこなかったか、あるいは入試センター試験や第二次入試で生物を選択しなかった学生で占められている状況に、危機感をもったからに他ならない。また、入学後に生物の補習授業をしている大学もかなりあるという現実もある。入試に関する意見の大勢は、「生物を必須としたいが、現行のセンター試験では、物理と生物のいずれかの選択となっているので、センター試験の理科を改革するのが第一である」、また「高校の学習指導要領では、理科の必修が最低2領域となっているために、殆どの学生が物理、化学、生物、地学のうち2領域しか履修しなくなっている。したがって、生物を全く学習しない学生が、受験対策のみで、医・歯・薬学部などに入ってくることになる。入試科目に生物を必須とすることによって、その弊害を防止できるのではないか」というものであった。

最近、事態が大きく変化してきた。生化学会などが声を上げてきた成果が実って、医・歯・薬学部などの入試に生物を必須とする条件は整いつつある。平成16年度から、入試センター試験の理科で、生物と物理が分離されることになった。また、国大協の医学教育特別委員会は、国立大学の医・歯学部入試の理科で生物、化学、物理の三科目を必須にするとの方針を提示、入試センター試験と大学ごとの二次試験を通じて、三科目を必須とし、平成14年度からの実施を目指すとした。しかし、今年（平成15年）であるが、センター試験で生物を必須とした大学はなく、第二次入試で生物必須を打ち出したのは、東大理II、理IIIおよび京大医の後期試験のみである。北大医では、新学習指導要領で教育された学生が受験する平成18年度から、センター試験は二科目選択、二次試験では二科目の選択とするが、そのうち一科目はセンター試験を受験していない科目を必須とするように決めたという。その結果、生物、物理、化学の三科目が実質的に必須ということになる。最近の生命科学の著しい進歩の基礎をなす生物、化学、物理を入学前に履修し、それらの科目の入試に挑戦することを大学は希望している。しかしながら、多くの大学が、必要性は十分認識していても、生物必須あるいは理科三科目をためらっているのが実状でもある。それは、現実に学習指導要領に基づいて行われている高校理科教育の中で、受験生に加重な負担を強いることにならないかという懸念からである。

しかしながら入試科目の設定は、大学から社会への意思表示である。生命科学の教育に携わっている多くの人が、「実行の困難さを承知の上で、高校での生物履修を要求し、入試でも何らかのかたちで必須にすべきである」（平成12年の生化学会公開討論会報告）としている。生物系学部へ進学を希望する者は、生命科学の基礎をなす生物、物理、化学の基礎的知識をもって進学してほしいという大学の意思を入試科目の設定で明示すべきであろう。したがって、学習指導要領による選択制を導入した理科教育に、高校独自の取り組みをプラスすることを大学の立場で要請することになる。高大連携がいわれる時代である。大学教育の質を維持するために、高校側の理解を得る努力が必要となってきた。

\*札幌医科大学長